

加賀検定

第9回 加賀ふるさと検定試験問題

上級 (全60問)

2021年12月19日

加賀ふるさと検定・おもてなし講座実行委員会

各問題に対して、それぞれ①～④までの選択肢の中に正解が1つあります。解答用紙に、正解と考える番号を1つだけ○で囲って下さい。(黒色のエンピツもしくはボールペンを使用のこと)

- 1 加賀市の地形を見ると、低地の北側は日本海に面し、江沼砂丘とよばれ、()の時代に堆積した砂層が現在の片野から塩屋近辺まで見られる。
①新第三紀 ②古第三紀 ③第四紀完新世 ④第四紀更新世
- 2 当市の測量地点である加賀菅谷における、ここ30年間の平均降水量は、約()mmとなっている。
①2,862 ②3,078 ③4,162 ④5,268
- 3 当市の「女郎ヶ滝」は、九谷町近くを流れる()の枝沢にかかる、落差およそ40mの滝である。
①千束川 ②杉の水川 ③生水川 ④九谷川
- 4 日本で最も古い飛騨変成岩の地層が加賀市では、()地区に見られる。
①片野 ②三谷 ③九谷 ④大土
- 5 平成5年(1993)片野鴨池はラムサール条約に基づく登録湿地になった。この条約は()のラムサールという都市で開催された会議で採択された条約に基づいている。
①サウジアラビア ②オマーン ③イラン ④イラク
- 6 加賀市河南町の地層からはピカリアと称する()の化石が見つまっている。
①ホタテ貝 ②カキ貝 ③シジミ貝 ④巻き貝
- 7 当地では、農家の「オエの間」の天井裏を()と呼んだ。
①デイ ②アマ ③ツシ ④ニワ
- 8 当地方の方言で「がさる」とは、主に()という意味で使われていた。
①かさばる ②うるさい ③ふざける ④大声をだす
- 9 縄文時代早期の橋立大野山遺跡からは、尖底()と呼ばれる県内最古の土器が出土している。
①火焰型土器 ②楕円押型文土器 ③深鉢撚糸文土器 ④円筒沈線文土器
- 10 弥生時代前期末の柴山瀉周辺の遺跡から、北陸で最も古い粃や県内最古の弥生土器が発見された。この()式土器は、東北地方の影響が強く、縄文時代晩期の様式を残している。
①柴山水底 ②柴山本村 ③柴山出村 ④片山津

- 11 黒瀬・南郷古墳群のうち、吸坂丸山支群の5号墳からは、鉄製甲をはじめ、()土製品や金製の耳環など、貴重な副葬品が出土している。
 ①三角柱状 ②鶏形 ③巻貝形 ④分銅形
- 12 法皇山横穴群に近い宇谷丸山にも横穴群があり、この地域に形成された()を掘った横穴13基が確認されている。
 ①安山岩 ②泥岩 ③凝灰岩 ④緑色岩
- 13 弘仁14年(823)に加賀国が越前国より独立し、江沼郡の北半分が能美郡として分立した。承平年間(931~38)に編纂された『和名類聚抄』によると、新しい江沼郡には8郷、あるいは同本の異本によれば()を加えた9郷が置かれたという。
 ①郡家郷 ②長江郷 ③山背郷 ④三枝郷
- 14 正倉院文書のなかの「越前国江沼郡山背郷計帳」には、江沼臣族の家族構成を記載した部分があり、そこには後に女孀として貴族の位を得た()の名が見える。
 ①江沼臣刀良女 ②江沼臣族背田女 ③江沼臣麻蘇比女 ④江沼臣族糠女
- 15 文永10年(1273)、熊坂庄の地頭職を領有した大見実泰は、この庄の当時の領家であった()家の預所と争い、土地の半分を自分の領地としてしまった。
 ①徳大寺 ②西園寺 ③東福寺 ④勸修寺
- 16 15世紀以降、京都の公家の中には、荘園領主の權益を守るために下国し、家領の直接経営に当たる者も出た。額田荘・八田荘では()の流れをくむ中院家が父子3代にわたり在住して直務を行った。
 ①桓武平氏 ②清和源氏 ③藤原摂関家 ④村上源氏
- 17 時宗最盛期の応永21年(1414)、遊行上人()が潮津で法要を開いた時、篠原合戦で討ち死にした斎藤実盛の霊があらわれ、この怨霊を懇ろに供養したという。
 ①呑海 ②自空 ③尊明 ④太空
- 18 富墓庄の庄務は、鎌倉時代から菅原道真の後裔の高辻家が知行していたが、応永30年(1423)に将軍()によって、その一部が北野天満宮に寄進された。
 ①足利義満 ②足利義持 ③足利義教 ④足利義政
- 19 文明3年(1471)、近江を転々としていた蓮如は吉崎に拠点を立てて以降、三門徒派・高田派を()と非難して退け、その派の諸寺や門徒を本願寺派への吸収を図った。
 ①土蔵法門 ②秘事法門 ③くらがり法門 ④隠し念仏

- 20 享禄4年(1531)、山田光教寺の2世頭誓は、黒瀬覚道などの有力国人と共に、朝倉の援軍を得て、本願寺と連繫する()一党と戦ったが、敗れて越前に亡命した。
 ①本覚寺 ②松岡寺 ③本泉寺 ④超勝寺
- 21 山口玄蕃宗永は、山城国(京都府)の出身で、慶長3年(1598)4月に越前北庄城主()の家老として大聖寺城主となり、江沼郡7万石を支配した。
 ①堀秀政 ②丹羽長秀 ③小早川秀秋 ④柴田勝家
- 22 初代大聖寺城代(のち郡奉行)の太田長知は、慶長7年(1602)5月に加賀藩主2代前田利長の命で()によって金沢城内で斬殺された。
 ①津田重久 ②横山長知 ③小塚権太夫 ④近藤長広
- 23 大聖寺藩の家臣数は、藩祖利治治世の寛永16年(1639)には()、2代利明治世の延宝2年(1674)には219人、11代利平治世の天保15年(1844)には278人と増加した。
 ①106人 ②127人 ③153人 ④171人
- 24 万治3年(1660)、大聖寺藩祖前田利治が江戸で死去したことに伴い、中沢久兵衛、小沢三郎兵衛、小栗権三郎の3人が殉死し、このうち中沢は()で自害した。
 ①宗英寺 ②久法寺 ③全昌寺 ④寛慶寺
- 25 大聖寺新田藩祖前田利昌は、宝永6年(1709)2月に上野寛永寺で行われた5代将軍徳川綱吉の法会において、御馳走役を務めた大和()の織田秀親(監物)を殺害した。
 ①柳本藩主 ②蒲生藩主 ③郡山藩主 ④柳生藩主
- 26 柴山瀉周辺にも、大聖寺川と同様に川舟の河道(船着場)が置かれており、遊行上人一行は、()村領にあった上人河道を利用して実盛塚を回向した。
 ①柴山 ②新保 ③伊切 ④篠原
- 27 4代前田利章治世に起こった正徳一揆では、農民たちは作柄の検分を行っていた藩の役人らを()村で襲撃し、年貢の軽減を認めさせた。
 ①分校 ②山代 ③串茶屋 ④那谷
- 28 大聖寺藩の村々には、村肝煎・()・百姓代からなる村方三役(地方三役)が置かれており、村肝煎は頭振(水呑百姓)を除く村人から入札(選挙)で選ばれた。
 ①組合頭 ②十人頭 ③五人頭 ④十村頭
- 29 大聖寺藩では、城下町の西端に関所(加賀藩が慶長15年頃に設置)を、橘・吉崎・熊坂・()村などに口留番所を置き、越前との往来を常に監視した。
 ①山中 ②風谷 ③九谷 ④真砂

- 30 明治初年(1868)、大聖寺藩で預かっていた浦上^{うらかみ}キリシタンたちは、その後、金沢の()
 に建てられた養生所^{ようじょうじょ}に送られた。
 ①尾山神社^{おやまじんじゃ} ②卯辰山^{う たつやま} ③大乘寺^{だいじょうじ} ④野田山^{の だ やま}
- 31 大聖寺藩士飛鳥井清^{あすか いきよし}は、鉛筆製造^{えんぴつせいぞう}を行なう際、ウィーン万国博覧会で鉛筆製造の技術を学
 んできた()の指導を得た。
 ①藤山種広^{ふじやまたねひろ} ②井口直樹^{いぐちなおき} ③小池卯三郎^{こいけ う さぶろう} ④真崎仁六^{まざきにろく}
- 32 明治期、江沼郡の九谷焼業界は、江戸期の染錦伊万里^{そめにしきい まり}の写しを大量に生産した。これらの
 焼き物は仕上がりが大変よく、()伊万里と呼ばれて人気があった。
 ①山代 ②大聖寺 ③九谷 ④江沼
- 33 昭和7年(1932)、大聖寺商工会館の完成を記念して、大聖寺()が開催された。
 ①物産展 ②博覧会 ③古九谷展 ④十万石文化展
- 34 江沼郡では、明治初年、錦城小学校をはじめ21の小学校が設立された。このうち、「玄笠^{くろかさ}
 小学校」と称していた学校は、()町に在った。
 ①七日市^{なのかいち} ②西島^{にしじま} ③庄^{しょう} ④加茂^{かも}
- 35 昭和33年1月(1958)、山中町を除く9ヶ町村が合併し、(旧)加賀市が発足した。翌34年
 には市制発足祝賀会^{しせいほつそくしゅくがかい}が()にて盛大に開かれた。
 ①錦城小学校 ②大聖寺商工会館 ③旧大聖寺町役場 ④市役所新庁舎
- 36 大聖寺出身の海軍大將瓜生外吉^{うりゅうそときち}の夫人は、明治4年(1871)に岩倉使節団^{いわくらしせつだん}として渡米した日
 本初の女子留学生^{りゅうがくせい}5名の一人、()である。
 ①津田梅子^{つ だ う め こ} ②吉益亮子^{よしますりょうこ} ③永井繁子^{ながいしげこ} ④山川捨松^{やまかわすてまつ}
- 37 江沼郡出身の天台宗の僧延昌^{てんだいしゅう そうえんしょう}の事蹟をもとに創作された謡曲「敷地物狂^{しきじものぐるい}」の作者は
 ()だと考えられている。
 ①観阿弥^{かんあみ} ②世阿弥^{ぜあみ} ③観世元雅^{かんぜもとまさ} ④金春禅竹^{こんばるぜんちく}
- 38 斎藤実盛^{さいとうさねもり}は、越前から武蔵国長井^{むさしのくにながい}に移り住み、当初は()に仕えていたが、平治
 の乱の後には関東の有力武将として平宗盛^{たいのむねもり}に仕えて活躍した。
 ①源頼政 ②源義家 ③源義朝 ④源為義
- 39 浄土真宗本願寺派第8代法主蓮如^{じょうどしんしゅうほんがんじは ほつすれんによ}は、永享3年(1431)天台宗門跡寺院^{もんぜきじいん}()で
 得度した。
 ①曼殊院 ②三千院 ③青蓮院 ④妙法院

- 40 江沼郡（ ）を拠点とする一向一揆の大将であった藤丸新介は、天文 24 年（1555）朝倉宗滴が江沼郡に侵入した時、南郷城で迎え撃ったが敗退した。
 ①横北 ②赤尾 ③黒瀬 ④福田
- 41 溝口秀勝は、天正 12 年（1584）丹羽長秀の与力として、大聖寺城主 4 万 4000 石を与えられたが、翌年、長秀の死後により（ ）の与力となり、引き続き配属された。
 ①柴田勝家 ②羽柴秀吉 ③堀秀政 ④青木一矩
- 42 飛鳥井清は、明治 8 年（1876）に江沼郡西谷村（ ）の黒鉛を利用し、柿沢理平を職工長とした会社「加州松島社」を設立して鉛筆製造を始めた。
 ①生水 ②片谷 ③我谷 ④枯淵
- 43 渡辺卯三郎は、明治 13 年（1880）10 月の金沢病院大聖寺分院（のち江沼病院）の開設に際し、その院長職を（ ）に譲り顧問となった。
 ①竹内玄同 ②馬嶋謙吉 ③稲坂謙吉 ④黒川良安
- 44 物理学者の中谷宇吉郎は、大正 14 年（1925）に理化学研究所で（ ）の研究室員となり、昭和 11 年（1936）には世界ではじめて人工雪の製作に成功した。
 ①長岡半太郎 ②野口英世 ③高峰譲吉 ④寺田寅彦
- 45 陸軍大佐の辻政信は、昭和 25 年（1950）に戦犯容疑を受けて身を隠していたときの体験を書いた（ ）を週刊誌『サンデー毎日』に連載した。
 ①動乱の眼 ②潜行三千里 ③日本と世界 ④亜細亜の共感
- 46 片山津町の西側台地では、管玉や勾玉などを製造していた住居と工房を兼ねた穴式住居跡（ ）基が発見され、古墳時代の専門的玉造工人集団の集落と推定されている。
 ① 1 3 ② 2 3 ③ 3 3 ④ 4 3
- 47 鹿島は大聖寺川河口の陸続きの小島で、古くは天台宗の霊場が、江戸時代には（ ）と称する法華宗の道場があったため、鹿島の森は数百年来、斧を入れることはなかった。
 ①慈光院 ②萬宝院 ③宗寿院 ④慈妙院
- 48 菅生石部神社では、毎年 7 月 24 日から 26 日にかけて行われる天神講が行なわれ、この日は氏子の少年たちにより、（ ）の舞・鈴の舞・蝶の舞の 3 種の稚児舞が奉納される。
 ①水 ②扇 ③松 ④火
- 49 山中温泉菅谷町の（ ）境内に立つ幹周 7.3 m の大スギは、地上 3 m のところで 3 つに幹が別れていたため、別名「三叉大スギ」と呼ばれる。
 ①菅原神社 ②白山神社 ③八幡神社 ④菅谷神社

- 50 加賀市が所蔵する白山麓の山村生産用具 2638 点と、() で使われていた山村民家 1 棟が、国の有形民俗文化財に指定されている。
- ① 旧白峰村桑島 ② 旧西尾村西俣 ③ 旧白峰村白峰 ④ 旧新丸村新保
- 51 塩屋町を中心に伝わる「シャシャムシャ踊り」は、笛や太鼓の囃子もなく、仏の信心を歌った歌声だけの素朴な盆踊りで、別名()とも言われている。
- ① 念仏踊り ② 蓮如踊り ③ 法然踊り ④ 一向踊り
- 52 大聖寺町の西端にある錦城山(標高約 65m)には、南北朝時代の()を史料的な初見とする大聖寺城が置かれていた。
- ① 源平盛衰記 ② 愚管抄 ③ 神皇正統記 ④ 太平記
- 53 大聖寺下屋敷の「山の下寺院群」には、実性院・蓮光寺・久法寺・全昌寺・正覚寺・宗寿寺・本光寺や神明宮があり、このうち、宗寿寺は()の寺院である。
- ① 法華宗 ② 曹洞宗 ③ 日蓮宗 ④ 浄土宗
- 54 大聖寺藩では、片野鴨池の周辺で鴨や雁などを捕る坂網猟が行われ、『大聖寺藩史』には、江戸後期、坂網を投げ上げる「坂場」が()ヶ所余あったとの記録がある。
- ① 390 ② 470 ③ 670 ④ 780
- 55 菅生石部神社の境内には、文政 8 年(1825)に()の名工山上善右衛門嘉広の系統にあたる 7 代目善右衛門吉順が建立した楼門(神門)がある。
- ① 四天王寺流 ② 遠州流 ③ 大都流 ④ 建仁寺流
- 56 大聖寺城主山口宗永の菩提寺で知られる大聖寺神明町の全昌寺には、慶応 3 年(1867)から明治初年にかけて製作した()の五百羅漢などがすべて残されている。
- ① 517 体 ② 537 体 ③ 557 体 ④ 577 体
- 57 山中温泉医王寺所蔵の「山中温泉縁起絵巻」には、奈良時代の大僧正行基が温泉を発見したことや、鎌倉時代に()の御家人長谷部信連が温泉を再興したことを記している。
- ① 加賀国 ② 能登国 ③ 越前国 ④ 越中国
- 58 山中漆器の生産額のピークは昭和 63 年(1988)で、この時期、生産額は約 400 億円、事業所数はおよそ()ヶ所に達していた。
- ① 700 ② 820 ③ 890 ④ 920

59 現在の片山津温泉総湯そうゆは、平成 24 年(2012)に世界的な建築家（ ）が設計したもので、全面ガラス張りで美しい柴山湯を眺めることができる。

- ①磯崎 新いそざき あらた ②谷口吉生たにぐちよしお ③安藤忠雄あんどうただお ④隈研吾くまけんご

60 明治 13 年(1880)、大聖寺商法会議所しょうほうかいぎしょが設立され、初代会頭かいとうに（ ）が就任した。

- ①梅田五月うめださつき ②飛鳥井清あすかいきよし ③石川嶂いしかわたかし ④新家熊吉あらいえくまきち